

## 健診の内容・料金

問合せ 健診専用電話 ☎026  
 集団健診・人間ドック 受け付け中  
 個別健診・みなし健診 各医療機関にお問い合わせください

項目	対象者・内容	自己負担額	
		集団健診	個別健診
特定健診	対象者 40～74歳の廿日市市国民健康保険加入者 内容 身体測定、検尿、問診、血圧、心電図、採血（血糖・貧血など）、眼底検査（集団健診のみ）	<b>無料</b>	
後期高齢者健診	対象者 後期高齢者医療保険加入者（受診日に満75歳以上の者。また、65～74歳の人で「後期高齢者医療被保険者証」を持っている人） 内容 身体測定、検尿、問診、血圧、心電図、採血（血糖・貧血など）、眼底検査（集団健診のみ）	市民税課税世帯 <b>1,000円</b>	
		市民税非課税世帯 <b>400円</b>	
C型・B型肝炎ウイルス検査	対象者 40歳以上の人で今まで一度も市の肝炎検査を受けたことがない人 内容 採血	<b>900円</b>	
胃がん検診	対象者 40歳以上の人 内容 問診、バリウムによる胃部X線撮影	<b>2,200円</b>	
肺がん（結核）検診	対象者 40歳以上の人 内容 問診、胸部X線撮影	<b>600円</b>	
大腸がん検診	対象者 40歳以上の人 内容 問診、2日分の検便検査	<b>500円</b>	
乳がん検診	対象者 40～49歳の女性（平成27年4月1日現在で偶数年齢の人） 内容 問診、視触診 マンモグラフィ（2方向） 対象者 50歳以上の女性（平成27年4月1日現在で偶数年齢の人） 内容 問診、視触診 マンモグラフィ（1方向）	<b>2,200円</b>	<b>2,300円</b>
		<b>2,000円</b>	
子宮頸がん検診	対象者 20歳以上の女性（平成27年4月1日現在で偶数年齢の人） 内容 問診、内診、視診、細胞診	<b>1,400円</b>	<b>2,100円</b>

※特定健診を受けるには、集団健診、医療機関での個別健診、人間ドック、みなし健診の方法があります。いずれか一つを選んで受診してください  
 ※市民税非課税世帯の人（平成26年度課税状況）は、がん検診、C型・B型肝炎ウイルス検査が無料。生活保護世帯の人は、集団健診のみ受診可（無料）

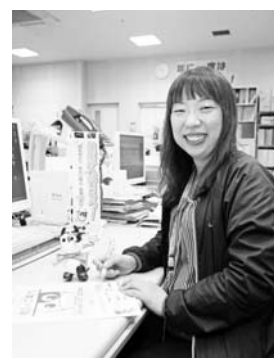


### 市有施設の受動喫煙防止に取組みます

広島県では、「広島県がん対策推進条例」を制定し、県民の死亡原因の第1位であるがん対策を総合的に推進するため、がん予防の推進や受動喫煙の防止などに取り組んでいます。

廿日市市では、「市有施設の受動喫煙防止に関する指針」を作成し、平成27年10月1日から多くの市民が利用する公園や市民センターなどで敷地内禁煙または建物内禁煙などの受動喫煙防止策を講じ、快適な施設環境・市民の健康の保持・増進を図ることとしました。ご理解とご協力をお願いします。

健診の詳細は、「健診のご案内」をご覧ください



健康推進課 保健師  
井上 陽子  
(いのうえ・ようこ)

保健師に聞く

### 1年に1回、健診を受けましょう

取材をさせていただいた中田さんが「健診を受けて命拾いをした。健診に行ったらよかったからよかった」と元気に笑顔で話され、嬉しくなりました。

廿日市市では特定健診、後期高齢者健診、がん検診を実施しています。

健診の目的は病気の早期発見です。健診で見つかるのも怖いですが、身体に症状が出てからでは、病気の重症化や治療の長期化、生活に制限がでることがあります。な

にも症状がないときに健診で発見できることによって、治療期間が短くなったり、治療後の生活制限もなく過ごすこともできることが多いです。

早期のがんは、ほとんど自覚症状がありません。ですから、定期的に1年に1回は、がん検診などを受けて自分の体をチェックしましょう。年に1度、自分の身体を見つめ、いつまでも笑顔で生活してもらいたいと私たちは願っています。



中田東洋夫さん(72)  
みどりさん(68)・栗栖

健診を受けたことでがんの早期発見ができた中田東洋夫さん・みどりさんにお話を伺いました。

# 今、笑い合える幸せ

心身の健康 定期健診

## 症状が出てからでは遅かった。早くに発見できたことで、今の生活があります。

廿日市市でがんにかかった人 年間約1,000人（平成23年度）

「健診結果を見たときは、お互い驚きました」と話すのは中田みどりさん。5年前、夫の東洋夫さんの勧めで会社の健診を受けたときに、胃がんが見つかったのです。

東洋夫さんも2年前、市の健診を受けたときに腎臓がんが見つかりました。みどりさんの経験が、健診を受けることにつながったのです。

「幸い、お互いに早期に発見できたため、すぐに腫瘍の摘出手術を受けることができ、入院の期間も短くて済みました。今は薬を飲むこともありませんと東洋夫さん。」

「精密検査後、医師からは『症状が出てからでは、遅かった。早くに発見できたので、摘出する箇所も少なく済む』と言われました。当時、私の体にはまったく異変がなく、病気になるという自覚は、全くありませんでした。医師からの指摘を受けて、身に染みて健診の大切さが分かりました」と東洋夫さんは言います。

がんが見つかったからは、夫婦で週3回の朝のウォーキングを1時間以上掛けて行っているとのこと。お祭りなど地域の行事にも関わり、趣味は夫婦での旅行です。

「お互いが健康でなければ、今の生活はありません。今の健康を維持するために、普段から家の中に閉じこもらず、いつも出掛けることや畑仕事をすることを心掛けています」と笑ってみどりさんは話します。

また、ウォーキング大会や健康体操などがあるときには、2人で積極的に参加しています。

「市や会社の健診を受けるのは、時間や手間が取られることかもしれませんが、病気に罹らなければ、それ以上に費用と時間が掛かります。今後も健診は毎年欠かさず行くつもりです。」と2人は口を揃えて、話してくれました。

平成27年3月26日に発表された国立がん研究センターの報告によると全国のがん罹患者数（平成23年度）は、男性が49万6304人、女性が35万5233人、合計85万1537人でした。

日本人の死因第1位のがん。国民病ともいわれるようになりましたが、健診を受けることで、早期発見・早期治療につながります。